



学校便り
No. 14

※番号は昨年度から継続

夢・挑戦

令和2年7月15日
水俣市立水俣第二中学校
校長 高橋 裕二

匿名は、良いことをしたときにするもの

7月豪雨により津奈木町や芦北町で、がけ崩れや佐敷川の氾濫で床上浸水などの被害に遭われた方々に対して、心よりお見舞い申し上げます。

熊本県では、6月を「心のきずなを深める月間～いじめを許さない学校・学級を目指して～」として定め、いじめの未然防止に取り組んでいます。いじめの定義は「当該行為の対象となった生徒が心身の苦痛を感じているもの」ですが、本校では昨年度20数件、今年度は既に数件を、いじめと認知して対応してきました。いじめは、集団生活を行う学校では必ず起きると認識し、積極的にいじめを認知し、早期発見・早期解決に努めています。

さて、5月に20代のプロレスラーの女性が、テレビ番組の発言をきっかけに、SNS上で匿名の誹謗中傷（他人の悪口を言いふらすこと）を受け、亡くなりました。本人が番組上の演出として、意図的に発言したのではないとも言われています。匿名で書き込んだ人（投稿者）の多くは、本人が亡くなった後、自分の書き込みを削除したということです。投稿者の特定は、調べれば簡単にわかるそうですが、政府は悪意ある投稿を減らすために、法律を改正する準備を始めました。



【昨年度中体連バレーボール】

言葉一つで人は元気や勇気をもたらしますが、言葉一つで心が傷つき命を落とす人もいます。「匿名は、人助けや寄付など、良いことをしたときにするもの」と新聞に書いてありました。匿名で他人の悪口を書き込むのは、卑怯な行為で絶対にしてはなりません。

人権教育では「自分がされて嫌なことは、人にはほしくない」と言われます。また、「冗談だった」「面白半分だった」など、言い訳は通用しません。自分が楽しいだけでなく、「友達も楽しいか」という視点をもって、学校生活を送ってほしいです。「自分が幸せになりたいなら、自分の周りの人を幸せにすればよい」という言葉を思い出しました。

若者は大きな可能性を持っている！！

1年生にとっては、初めての期末考査が終わりました。テスト前の月曜と火曜の2日間、豪雨の影響で臨時休業（休校）となり、テスト勉強はしっかりできたのではないのでしょうか。学校は様々なことを学ぶ場ですが、勉強にしる、スポーツにしる、芸術にしる、「できないことができるようになる」「分からなかったことが分かるようになる」ことは、とても楽しいことだと思います。

生徒の皆さんは全員、今、大きな可能性を持っていると思います。鹿児島市出身で京セラの創業者稲盛和夫さんは、著書『生き方』の中で

- 「**できないことがあったとしても、それはいまの自分にできないだけであって、将来の自分なら可能であると考えることが大切です**」
- 「**人生は心に描いたとおりになる。強く思ったことが現象となって現れてくる**」
- 「**そもそも、こうありたいと願うこと自体、それを現実にする力が潜在的に備わっている証拠です。人間は素質や能力がないことを、あまりしたいとは思わないものです**」

と述べられています。

「思い（夢や目標）」を強く持ち、「今日一日」を積み重ね、「いま」を大切にすることが、自分の「思い（夢や目標）」を実現することにつながります。小学生や中学生の頃になりたいと思った職業に就いている人が多いようです。

二中はコミュニティ・スクールとして、学校運営協議会を中心に地域とともにある学校づくりを推進しています。その委員である野間 勝さんが6月末にお亡くなりになりました。野間さんは、交通指導員として、毎朝、水俣駅前交通指導をされていました。「孫が中学校に入学して、卒業するまで頑張りたい」と言われていたそうです。毎日、早起きして誰かのために行動することは、簡単ではないと思います。多くの地域の方が、小学生や中学生が安全に登校できるように、朝早くから交通指導をされています。生徒の皆さんは、自分から先に、笑顔で、大きな声であいさつをして、感謝の気持ちを表してほしいと思います。葬儀後、野間さんに乗せた車列は、二小、二中の前を歩いて行かれ、多くの先生方で最後のお見送りをしました。ありがとうございました。